

第6回 熊野川懇談会

会議資料 1

経過報告

1. これまでの懇談会の流れ

熊野川懇談会においては、平成16年10月の第1回以降、以下の内容で審議が進められています。

< 懇談会開催内容一覧表 >

年	月	懇談会 (主な議事)	現地情報の把握	検討会
16年	9			
	10	第1回熊野川懇談会(10/30) (設立等・シンポジウム)		
	11			
	12			
17年	1	第2回熊野川懇談会(1/29) (流域概要、現地視察会の進め方等)		
	2			
	3			
	4		現地視察会(2回) (4/21~6/5) (流域の自然、河川関連 施設の把握)	
	5			
	6			
	7			
	8	第3回熊野川懇談会(8/1) (現地視察会のまとめ、語る会の進め方等)		第1回検討会(8/20) (整備計画検討のための 必要資料について)
	9			
	10		熊野川を語る会 (全6回) (10/22~1/15) (流域住民の意見把握)	
11				
12				
18年	1			
	2			
	3	第4回熊野川懇談会(3/4) (熊野川の治水(その1))		
	4			
	5			
	6			
	7	第5回熊野川懇談会(7/1) (熊野川の治水(その2))		
	8			第2回検討会(8/25) (整備計画検討のための 作成資料説明と必要 資料追加について)
	9			
	10	第6回熊野川懇談会(10/7) (熊野川の利水・環境・歴史・文化)		
	11			
12				

2. 第5回 熊野川懇談会の概要

7月1日に開催された第5回懇談会の審議内容は以下のとおりです。

開催日・場所

開催日：平成18年7月1日(土)

場所：紀宝町生涯学習センターまなびの郷

主な審議内容

1. 経過報告

熊野川懇談会のこれまでの経緯および第4回懇談会の審議内容が報告されました。



会場の様子(まなびの郷 きらめきホール)

2. 質問に対する回答

前回の懇談会で委員から河川管理者に出された質問に対する回答として、熊野川の洪水特性、ダム堆砂量、温暖化の影響による降水量等の変化、ダムによる洪水被害軽減への協力についての説明が行なわれました。

3. 熊野川の治水(その2)

河川管理者から熊野川の治水(その2)として、熊野川本川・支川の改修事業の概要、東南海・南海地震対応事業、維持管理、災害への備え等についての説明があり、その内容について質疑応答が行なわれました。主な内容は以下のとおりです。

<質疑応答の主な内容>

- ・熊野川の改修の完了予定はいつか。上下流で管理者が異なり事業進捗も違うがどのように整合させるのか。
予算面もあり予定を述べるのは難しい。流域全体で総合流域防災会議を開催し調整を行なっている。
治水の対象となる箇所は、本宮地区と日足地区の2箇所である。現在、地元意見を集め必要な治水対策を議論している。熊野川懇談会と併行的に整備計画を進めている。(和歌山県)
熊野川ではソフト対策を中心に治水対策を実施している。(三重県)
- ・本川左岸では津波が堤防高の50cm下まで上がるということだが、堤防の安全性に問題はないか。
左岸については現状でよいとは考えていない。
- ・ダムによる洪水低減量が大きいのことは、管理上、協力してダムの操作も折り込んだ洪水予測の体制づくりをするべきではないか。
- ・下流区間に取水施設がいくつかあるが、現在使われていないものもある。景観的に問題である。
撤去は占有者の責任であるので、不用となった時に撤去するよう指示している。

4. その他

傍聴者からの主な意見は以下のとおりです。

<意見の主な内容>

- ・熊野川懇談会の委員の方々、関係者の方々には、毎回熱心に討議いただき感謝している。今後とも流域全体に対して指導、協力いただけるようお願いしたい。
- ・熊野川の本래の動きをどう考えているか。河口まで流れている石がダムに溜まり海岸が小さくなっている。今後どのような熊野川と付き合うことになるのかそのあたりが気になる。

3. 第2回 検討会の概要

今後の審議に必要な資料や課題について委員間で協議する必要が生じたため、第2回検討会を8月25日に開催しました。審議内容は以下のとおりです。

開催日・場所

開催日：平成18年8月25日(金)
場 所：JAビル別館第11会場(和歌山市)



会場の様子(JAビル別館)

審議内容

検討会においては、河川整備計画に関わる治水、利水、環境(自然・歴史・文化)の資料等について、意見交換が行われました。主な内容は以下のとおりです。

<意見交換の主な内容>

○流量について

- ・流量に関して時空間的な変化がわかるような資料はないのか。ダム地点も含めて教えてほしい。
ダム地点の流量に関しては、十津川北山川ダム管理年報に日流量が記載されている。

○河床調査委員会概要版について

- ・流域内で開催された「語る会」において、「河床が上昇した」や「河床が低下した」との意見があった。河床調査委員会での報告における「河床は安定している」という結果と住民意見の間に食い違いがあるのではないかと。

河床調査委員会の報告はダム下流の砂の動きをマクロにとらえたものである。このため部分的には河床堆積や河床低下が生じる箇所がある。

- ・熊野川の河口の砂州は洪水流量には影響しないのか。

砂州は洪水流量 $7,000\text{m}^3/\text{s}$ から徐々になくなり $10,000\text{m}^3/\text{s}$ の流量になると飛ばされる状況である。魚類の生息域の確保や潮止め機能があり役立っている面もある。

砂州は洪水で海に流された土砂が波で戻されたものなので、これを取ると海岸浸食の原因となる。そのままにしておくのがよい。

○水質・濁水関係

- ・資料では熊野川から毎年流出する土砂量が約 30万m^3 で、林道からの土砂量が 2万m^3 弱程度となっている。このことから林道以外の山腹崩壊等で流出する土砂量が多いと考えられる。航空写真等を用いて山腹崩壊の状況を分析すれば土砂流出の原因がわかるのではないかと。
- ・熊野川の環境に係わる諸問題については、国交省だけで解決できる問題ではない。ダムなど現実に存在するのであるから、現実を現実として認めて、流域全体で解決していくべきではないかと。

○利水状況

- ・利水について、熊野川の水が現実として不足しているのかどうか教えてほしい。
過去の正常流量の結果を見ても流量は十分足りているという結果が出ている。

○濁水調整

- ・一般的な濁水調整では、都市用水と農業用水で大問題となるが、熊野川の場合は観光舟運との調整が主であり、2番目が工水との調整が問題となると考えられる。

○正常流量

- ・漁業組合がアユを放流しているので、アユの産卵時の流量が問題になるのではないかと。
- ・瀬切れについては支川(赤木川など)で10年に一度程度の頻度で生じているようである。